

たんげ けんぞう
丹下 健三 (1913~2005)



多くの国家プロジェクトを手がけた建築家。大阪府堺市に生まれ、大正9(1920)年から今治市で暮らす。高校時代にル・コルビュジェに傾倒し、建築家を志して東京帝国大学(現、東京大学)工学部建築学科に入学。昭和13(1938)年、大学卒業後は、ル・コルビュジェの教え子である前川國男の事務所に入り、岸記念体育館、社会事業会館の設計を担当するなどして修行した。

昭和16(1941)年、東京帝国大学大学院に入学。大東亜建設記念造営計画(1942年)と在バンコク日本文化会館(1943年)のコンペで1等を獲得し、建築家として名を知られるようになった。昭和24(1949)年、広島平和記念公園および記念館のコンペで1等に入賞、さらに都市的な仕掛けとして、原爆ドームに到達する強力な中心軸を設定し、焼け野原となった爆心地に明快な秩序を与えた。昭和36(1961)年、丹下健三+都市・建築設計研究所(現、株式会社丹下都市建築設計)を開設し、1960年代は都市計画的な仕事を手がけるようになり、未来的な都市計画ブームに火をつけた。

60年以上に及ぶ活動を通し、急成長する戦後日本という国家を背負い、各地にランドマークとなる印象的な建築を手がけ、また、国際的に活躍する日本人建築家の先鞭をつけた。代表作に新旧東京都庁舎、代々木国立屋内総合競技場、大阪万国博覧会会場マスタープラン、スコピエ都市計画、フジテレビ本社ビル、愛媛県県民文化会館などがある。

60年以上に及ぶ活動を通し、急成長する戦後日本という国家を背負い、各地にランドマークとなる印象的な建築を手がけ、また、国際的に活躍する日本人建築家の先鞭をつけた。代表作に新旧東京都庁舎、代々木国立屋内総合競技場、大阪万国博覧会会場マスタープラン、スコピエ都市計画、フジテレビ本社ビル、愛媛県県民文化会館などがある。

略歴

大正2(1913)年9月4日	大阪府堺市に生まれる。父の転勤で上海のイギリス租界に移り住む。
大正9(1920)年	父の出身地である今治市に家族で移住
昭和10(1935)年	東京帝国大学工学部建築学科に入学
昭和13(1938)年	東京帝国大学工学部建築学科より辰野賞を受賞 卒業後、前川國男建築事務所に入所
昭和21(1946)年	東京帝国大学大学院修了後、同大学建築科助教授に就任
昭和24(1949)年	広島平和記念公園および記念館のコンペで1等に入賞
昭和33(1958)年	米国建築家協会(AIA)第1回汎太平洋賞受賞
昭和34(1959)年	東京大学より工学博士の学位を受ける。
昭和36(1961)年	丹下健三+都市・建築設計研究所を開設
昭和40(1965)年	日本建築学会特別賞(国立屋内総合競技場)
昭和45(1970)年	ローマ法王庁聖グレゴリオ騎士章受章
昭和48(1973)年	フランス建築アカデミー ゴールドメダル受賞
昭和51(1976)年	西ドイツ政府プール・ル・メリット勲章受章
昭和54(1979)年	イタリア国家有功勲章コメンダトーレ章受章
昭和55(1980)年	文化勲章受章
昭和61(1986)年	日本建築学会大賞受賞
昭和62(1987)年	プリツカー賞受賞
平成6(1994)年	勲一等瑞宝章受章
平成8(1996)年	レジオンドヌール勲章受章
平成17(2005)年3月22日	91歳で永眠

(写真提供：株式会社丹下都市建築設計)

〈関連図書〉

- ・丹下健三都市建築設計研究所『丹下健三都市建築設計研究所作品集』 新建築社 1979年
- ・丹下健三『人間の記録57 丹下健三 一本の鉛筆から』 日本図書センター 1988年

〈主な収蔵資料〉…(P215, 91)

〈ゆかりのある場所〉…(P294, 123)